



# 三中だより

中野区立第三中学校  
第5号  
平成28年9月2日発行

## スポーツマンシップ

校長 齊藤 久

今年の夏はブラジルでリオオリンピックが開催され、日本人選手の活躍からたくさんの感動をいただきました。

私は中三の時に所属していたバスケットボール部の夏の大会で、地元の総合体育館で開催された開会式で選手宣誓を行いました。顧問の先生に宣誓の言葉を相談すると次のように指導されました。そして、声高らかに選手宣誓を行いました。「宣誓！我々選手一同は、スポーツマンシップにのっとり、正々堂々と競技することを誓います。」

チームメイトは私に「ところで、スポーツマンシップって何か知っているのか？」と質問してきました。私は友人に「スポーツ選手が乗る大きな船のことだと思うよ。」と答えました。友人は「船をのっとるのは犯罪でしょ！」と言いました。中学生の頃の会話です。

オリンピックが開催される1週間ほど前、私は三中の野球部の生徒と共に高校野球の甲子園予選西東京大会の試合を見学に神宮球場へ出かけました。決勝では延長戦の末、八王子学園八王子高校が甲子園へ初出場を決めました。八王子高校の監督の安藤徳明先生は、以前、東京都の中学校の保健体育科の教員でした。安藤先生は野球が専門であるにもかかわらず、町田市の中学校に勤務している時、バスケットボール部の顧問として中学校の全国大会で優勝させました。その頃、安藤先生は「バスケットでは中体連の役員の先生が試合中に対戦相手が驚くような大きな声を出したり、審判の判定にクレームをつけたりするが、これは野球の大会では考えられないマナーです。」と発言されたことがありました。指導者がスポーツマンシップを身に付けていなければ、良い選手が育つはずはありません。

スポーツマンシップとは、ルール（フェアプレーの精神）、審判、対戦相手を尊重することです。オリンピックでは勝敗を越えた感動シーンがたくさんありました。これらはスポーツマンシップが身に付いているからこそできた行動だと思います。

陸上女子5000m予選でアメリカとニュージーランドの女子選手が転倒してしまいました。アメリカの選手は起きて最後まで走るように声をかけました。声をかけたアメリカの選手の怪我が重く、その後、最下位で足を引きずりながらゴールしました。ゴールで待っていてくれたのはニュージーランドの選手でした。

他に有名な話としては体操の内村航平選手に対する記者の質問にそんな質問は意味がないと遮った銀メダリストのウクライナの選手の言動や同じく体操の女子選手で北朝鮮と韓国の選手の笑顔の2ショット写真などがありました。

次の2020東京大会では金30個が目標など早速メディアの記事が出ていますが、勝敗を越えた感動であふれる大会となることを期待します。

---

## 今後の主な予定

9月 2日 (金) 帰生徒保護者会 13:30～	9月 14日 (水) 定期考査 (～16日)
9月 6日 (火) 補充教室開始 (～13日)	9月 15日 (木) 学校保健委員会
9月 9日 (金) 水泳指導終	9月 20日 (火) オープンキャンパス
9月 10日 (土) 道徳授業公開講座・学校公開	9月 23日 (金) 鉢花交流 (～24日)
	9月 27日 (火) 総体陸上

---

## 人権を考える～人権講話～

### 1 学年

第一学年 進藤 智成

7月9日(土)に、1学年を対象として「“社会を明るくする運動”昭和地区推進委員会」の皆さんによる、いじめ問題について考える企画が催されました。まずは、東京都保護司会連合会会長の永見光章さんから、かつて社会の注目を集めた中野富士見中学校でのいじめ問題に関する講演をしていただきました。永見さんは元中野富士見中PTA会長で、その当時の生徒や学校の実際の状況、事件後に学校、保護者、地域の方々など周囲の大人たちが一丸となって生徒の心のケアに努めた様子などを細かくお話しいただきました。



続いて行われた「いじめ状況を再現するロールプレイ」では、積極的にではなくともいじめに同調してしまう人や、傍観している人たちの行動がどれほど大切かを、改めて学ぶことができました。その後の話し合いでも、生徒たちは積極的に自分の意見を言い合い有意義な時間となりました。終了後には、「いじめに同調する生徒や見て見ぬふりをしている生徒が動けばいじめている生徒もいじめられている生徒も元の生徒に戻ることができる。」「過去にすごく悲しい事件があったと知り、またこのようなことを繰り返さないように周りでいじめられている人がいたらフォローしたいと思った。」などの感想が出ました。いじめは私たち一人ひとりが持つ人権を侵害するものであり、絶対にあってはならないものだと思えることができました。

### 2 学年

第二学年 高橋 美保子

7月9日(土)、視覚障がいを通して「誰もが幸せに生きる社会」について考えました。まず、東中野駅に設けられた視覚障がい者をサポートするシステムについて確認し、生徒二人組でブラインドウォークにも挑戦しました。視覚障がい者の八方さんからは、ほのかに見えていた視界が45歳で完全に失われた時の戸惑いや、アイメイトのシルエラと出会って生活圏が広がり、現在は毎年ダイビングを楽しんでいることなどをうかがいました。



日常生活は努力と工夫で何でもしているけれど、困っていたら「何かお手伝いできることはありますか?」と声をかけてもらえると、障がいがあってもよりスムーズに生活していくことができると話されました。

力強く、笑顔で話される八方さんと主人の側で静かに待つシルエラの姿に、2年生の生徒一人一人が真摯に話を受け止め、「誰もが幸せに生きる社会」の大切さを、改めて感じることができました。

## ボランティア活動

地域連携担当 渡邊 達也

7月30日（土）塔山小学校にて「縁日だよ！全員集合」が行われ、多くの三中生がボランティアとして参加してきました。ボランティアには第十中学校の生徒や地域の高校生、大学生も参加しており、生徒たちは地域の多くの方々との交流を通し、フランクフルトや海苔巻きの販売、ゲームの補助、カレーの調理、販売など自分たちの役割を一生懸命楽しそうに果たしていました。



昨年は実際に小学生として参加した、中学1年生も今年は自分たちがボランティア中学生として小学生たちを相手にする側だったので、昨年までとはまた違った経験になったことでしょう。



他にも、夏季休業前には文園児童館で今年から行われた将棋名人戦大会や毎年恒例のふみぞの夏祭りボランティア、夏季休業に入ってから、小学生対象に10日間早朝から行われた氷川神社でのラジオ体操ボランティア、文園児童館主催の工作教室や手芸教室、川添公園で

行われたお楽しみ会など、多くの地域の行事にて三中生が活躍してくれました。

このように、本校では、毎年様々なボランティア活動の体験を通じて、人の役に立つという自己有用感や達成感を味わう中で、他者に対する思いやりや豊かな人間性と社会性、地域の一員としての自覚を育むことを目的とし、ボランティア活動を推進しております。この貴重な体験で得たものを、今後の学校生活に生かし、活躍していってくださることを期待しています。

## 防災の日

副校長 三保谷 浩貴

9月1日は「防災の日」です。この日は関東大震災が発生した日であり、台風シーズンを迎える時期でもあることから、防災への心構えを準備するという意味で「防災の日」が創設されました。また、「防災の日」を含む一週間は防災週間と定められ、各関係機関が緊密な協力関係をもとに、防災普及のための行事や訓練などを行っています。関東大震災では火災の犠牲者が多く、帝都復興事業ではコンクリート造りの建物や大・小公園の設置等が進められました。同時に津波災害が起これ、200～300人の犠牲者が発生しました。特に、震源が陸地に近かったため、地震後5分程度で津波が来襲しました。

平成23年3月11日に起こった東日本大震災の地震は、日本で起こった観測史上もっとも大規模な地震で、多くの尊い人命が失われ、地域社会にも大きな傷跡を残しました。東京でも大きな揺れがあり、交通機関の停止により、多くの都民が帰宅困難になりました。児童や生徒が余震の続く中、自宅に一人で不安な時間を過ごさなければならなかったことなど、安全確保にも課題を残しました。また、通信手段の過剰集中による電話等の長時間にわたる不通、電力の供給不足による計画停電や物資の不足など、首都東京の都市機能が一時停止するほどの影響がありました。

大正12年の関東地震（関東大震災）から90年余りが経過し、関東地震以降のプレート運動によって地震エネルギーがある程度蓄積されています。そのため、M7級の地震として発生する時期に差し掛かっていると推定されています。

国の地震調査研究推進本部は平成24年2月、このような地震（M6.7～7.2程度）が発生する確率について、これまで同様に「今後30年以内に70%程度」と予測しています。この地震は、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）のように都市の直下で起こる可能性もあります。

今後、東京が大きな地震に見舞われた場合、自分の身の安全を守るために、まず一時集合場所に集まりますが、地震発生後、家族と連絡が取れないことが考えられます。また、災害によって建物や道路が破壊され、通常どおりに一時集合場所に行くことができないことも想定されます。

そこで、日頃から、家族で集まる一時集合場所を確認し、移動方法や連絡方法を決めておくこと

が必要です。さらに、家族で実際に歩いて危険箇所を見るなどして、いつ災害が起こっても落ち着いて行動できるように備えておきましょう。＜地震と安全（東京都教育委員会）より抜粋＞

東京都は、各家庭において、首都直下地震等の様々な災害に対する備えが万全となるよう、昨年度、防災ブック「東京防災」を作成しました。下記の点について、ご家族でのお話し合いをお願いいたします。

#### 【ご家族で話合ってみよう】

- ① 家にいるとき大地震が起きたらどうしますか。（地震発生の瞬間は？地震直後の行動は？）
- ② 外出時に大地震が起きたらどうしますか。（コンビニ、ホール、エレベーターでは？）
- ③ 避難することになったらどうしますか。（避難場所は？安全な避難のポイントは？）
- ④ 在宅避難することになったらどうしますか。（何を準備・備蓄しておくが良い？）
- ⑤ 居住する地域の過去の災害を知っていますか。
- ⑥ 災害と地形の関係を知っていますか。（地域の地形から注意が必要な災害は？）
- ⑦ 地域の防災訓練に参加したことがありますか。

本校では、大きな災害発生時、下記の4つの手段で、学校の最新情報を配信いたします。各ご家庭で情報を収集する手段をご確認ください。

- ① ホームページ <http://nk-3-j.a.la9.jp/>
- ② 学校情報配信システム（メール）
- ③ PTA ツイッター <アカウント>@nakano\_pta <アドレス>[https://twitter.com/nakano\\_pta](https://twitter.com/nakano_pta)
- ④ 災害用伝言ダイヤル「171」ダイヤル→「2」プッシュ→「03-3362-5236」

## 夏休み改修工事がまもなく終了します

平成30年の第十中学校との統合に向け夏季休業を利用して、本校の改修工事が行われました。第一校舎の西側トイレ、体育館床、第2校舎特別教室（第二理科室・技術室・第二家庭科室・生徒会室）及びトイレ、冷暖房設備、屋上、外壁などが新しくなるなど、工事が入りました。9月16日（金）を最終として工事は終了する予定です。それまで、足場の設置など、一部工事が残る箇所や校内の移動に制限がかかる箇所もありますが、生徒の安全を第一に考え施設管理や建設業者との話し合いを行っていきます。ご理解・ご協力をお願いいたします。

## 日本の文化を知ろう

### 二十四節気 七十二候【秋】

暦の上での秋は、立秋から立冬の前日（およそ8月7日～11月6日）までのことを指します。旧暦の月では7月から9月までとなります。秋の語源は、収穫が「飽き満ちる」と言われる他、草木が「紅く」染まる、空の色が「明らか」などの説があります。また、道元（鎌倉時代 日本曹洞宗の開祖）が「秋は月」と詠んだように、美しい名月が愛でられるときです。昔の人々は満月を待ち望み「居待月」「寝待月」「更待月」…と、移ろいゆく日々の月に名前を付けました。俳句でも月の季語は秋、昔からたくさんの方々が詠まれました。

- ・なかなか ひとりあればぞ 月を友（与謝蕪村）
- ・名月を とってくれろと 泣く子かな（小林一茶）
- ・何着ても うつくしうなる 月見かな（加賀千代女）
- ・名月や 池をめぐりて 夜もすがら（松尾芭蕉）

さて、9月2日は第四十二候処暑の禾乃登（こくものすなわちみのる）で、稲が実りの季節を迎えるころです。「禾」とは稲や麦、粟など穀物の総称をさします。「登」は実するという意味、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」はちょうどこの頃の時期に当たります。人格者ほど謙虚になるという古くからの教訓に倣い、自然を愛でながら、謙虚に暮らしていきたいものです。